

2014 年度の山口大学の国際交流活動



2015 年 3 月

山口大学国際戦略室

目次

はじめに	1
第1章 2014年度の国際戦略室の活動	3
1. 山口大学 HP「WEEKLY NEWS」で見る 2014年度の国際戦略室の活動	3
2. 国際戦略本部及び国際戦略室	20
3. 学術交流協定	21
(1) 2014年度の学術交流協定の締結等	21
(2) 大学等間学術交流協定	22
(3) 部局等間学術交流協定	24
4. 海外拠点	26
5. 本部への海外からの来訪者	27
6. 本学学長等の海外訪問	28
7. その他	28
(1) 国際協力活動推進プラットフォーム	28
(2) 国際会議、国際シンポジウムの開催	28
(3) 政府開発援助（ODA）との連携	29
(4) ODA 事業との連携実績	29
(5) 研究者の交流	33
(6) 職員の研修	33
(7) 学内の国際化推進体制の整備	34
(8) 留学生の促進策	34
(参考) 出身国・地域別留学生数の推移	35
(参考) 学術交流協定に基づく交換留学生数	36
第2章 2014年度の留学生部門の活動	37
1. 留学生交流拠点整備事業を推進	37
2. 山口大学日本語・日本文化サマープログラム 2014 を開催	38
3. 山口地域留学生交流推進会議及び外国人留学生懇談会の開催	38
4. 平成 26 年度外国人留学生見学旅行を実施	39
第3章 2014年度の学術研究部門の国際交流活動	39
1. 独立行政法人日本学術振興会助成	39
(1) 二国間交流事業 【大学院医学系研究科（工学） 山本修一教授】	39

(2) 外国人特別研究員 【大学院理工学研究科 兵動正幸教授】 -----	40
(3) 論文博士号取得希望者に対する支援事業 -----	41
①共同獣医学部 佐藤宏教授 -----	41
②大学院理工学研究科 合田公一教授 -----	41
(4) 研究拠点形成事業 【農学部 山田守教授】 -----	42

はじめに

山口大学は「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」を理念として、人間力とバイタリティーあふれる人材を輩出できる大学、教員と学生が共に育つ「共育できる大学」を目指しています。この「共育」には、大学と地域が連携してグローバル化の中で共に学び発展すること、留学生を迎え、送り出すことによって、それらの国々と日本が相互の理解を深め、協力し合って平和で持続性のある世界を目指して手を携えるという意味も含まれています。これらの認識に基づき、グローバル化社会に対応する「チャレンジ精神、行動力、課題探求力があり、自ら人生を切り開くことのできるたくましい人材を育てる大学」を目指したいと思っています。また、地域社会や国際社会の発展に貢献できる人材育成大学としてさらなる発展を目指します。

山口大学は「知」の公共財として、大学を取り巻く地域のリソースと連携して、国際的貢献を担うべきであるとも考えています。2008年4月に学長を本部長とする「国際戦略本部」を設置し、関連する他の部局とも連携を深めながら、大学の国際化について様々な議論を重ね、それに向けた活動を続けています。「国際」というキーワードは、教育と研究に幅広く複雑に関係しているため、国際化に関しても様々な意見や考えがあり、関連する活動も多岐にわたっています。

本報告書では、第1章にて本学において行われている国際化に向けた取組を2014年度の国際戦略室の活動をもとに取り纏め、留学生部門、学術研究部部門にて実施された国際交流事業をそれぞれ第2章、第3章に掲載いたしました。

この報告書が、学内のみならず本学に関係される多くの方々、大学を取り巻く地域の方々に、本学の国際化の一端を知っていただけたら幸いです。同時に、報告書をお読み頂いた方々から、多くの貴重な意見を頂くことができれば、本学の国際化推進に役立つものと期待しています。これからも大学内外の関係者の皆様のお知恵をお借りしながら、積極的に山口大学の国際化を推進していきますので、皆様方の力強いご支援をお願いいたします。

国際戦略室

2014 年度の山口大学の国際交流活動

第1章 2014年度の国際戦略室の活動

1. 山口大学HP「WEEKLY NEWS」及び「TOPICS」で見る2014年度の国際戦略室の活動

○「インドネシアディ 2014」を山口大学で開催（掲載日：2014/04/22）



2014」が在日インドネシア留学生協会山口支部主催，駐日インドネシア共和国大使館，山口大学，在大阪インドネシア共和国領事館，ガルーダインドネシア航空，国際機関日本アセアンセンターの共催で，吉田キャンパス大学会館で開催されました。

当日は，午前10時から岡学長と同協会山口支部長アフマッド・ウバイディラーさん（東アジア研究科博士課程1年）によるテープカットで一般市民を対象としたバザーによる文化の部が開会し，インドネシア文化の紹介，インドネシア料理や民芸品の販売，民族衣装の販売・試着と記念撮影等が行われました。

午後1時から，ユスロン・イーザ・マヘンドラ駐日インドネシア共和国特命全権大使，村岡嗣政山口県知事および岡学長の挨拶があり，バンバン・スギヤント在大阪インドネシア共和国総領事も参加され「インドネシアディ 2014」



のオープニングセレモニーが行われました。色鮮やかな民族衣装を身にまとったダンサーによる踊りが披露されるなど，様々な文化に接することができました。



また，17時15分からは，会場を市内のホテルに移動して，国際機関日本アセアンセンター貿易投資部中西部長代理およびマヘンドラ特命全権大使による政治・経済の現状分析と講演を中心としたセミナーが開催され，活発な質問と意見交換が行われ大変有意義なものになりました。その後の懇親会には，渡辺山口市長および久保田宇都市長も出席され，今後のインドネシアと

山口県全体の交流について議論が行われました。

岡学長の挨拶の中では，「2億4千万人の人口と多様な文化を有し，めざましい成長を遂げるインドネシアと活発な交流を行いたい。」との言葉もあり，山口大学ではこれを契機にますます盛んな国際交流を続けます。



○ 国際協力機構（JICA）青年海外協力隊説明会を開催（掲載日：2014/04/30）



4月24日(木), 吉田キャンパスにて, 国際協力機構(JICA)と山口大学の共催による青年海外協力隊説明会を開催しました。山口大学は「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」を理念として, 人間力とバイタリティーにあふれる, 世界に羽ばたく人材の育成を目指しています。本学の学生が, 日本国内のみならず海外にも目を向け, 活躍の場を見出してくれることを期待して, 本説明会を開催しました。

説明会では, 初めに, JICA 国際協力推進員の小野万理さんから青年海外協力隊の制度についての説明があり, 続いて, 2012年1月からアフリカ南部のザンビア共和国(職種:サッカー)へ派遣され, 2年間の派遣期間を終えて帰国した山陽小野田市出身の協力隊OBの山田涼太さんが, 自身の体験について報告を行いました。山田さんは, ザンビアの特徴や日本との違い, 現地での活動について VTR を見せながらユーモアたっぷりに紹介し, その中で, 特に感じたこととして「ネガティブな言葉で脅すのではなく, ポジティブな言葉でその気にさせることが大事」, 「密なコミュニケーションが結果を生む」と強調し, 経験者ならではの説得力ある言葉に参加者は大いに頷かされました。



説明会には, 青年海外協力隊の制度やアフリカのサッカー事情を学ぼうと, 学内外から約20人が参加し, 皆, 山田さんの話に熱心に聞き入り, 質疑応答では, コミュニケーションの問題, 現地の食事, 現地における他の日本人との関わりについてなど, 多くの質問が挙がり, 終了後も熱心に質問する参加者もいました。



参加者は, 山田さんの貴重な体験談に触れて, まだ見ぬ国々やそこで活動する自分の姿に思いを馳せている様子でした。この説明会を通じて, より多くの本学の学生が, 海外へと活躍の場を広げてくれることを期待します。

○ バングラデシュより地方都市行政能力強化プロジェクトで40名の研修員が来学

(掲載日：2014/06/02)

5月26日(月), 国際協力機構(JICA)が実施する地方都市行政能力強化プロジェクト研修で, バングラデシュのポルショバ(地方都市)の市長や行政官, 総勢40名が来学しました。





地方都市行政能力強化プロジェクトは、行政サービスや開発事業運営に係る実施体制が十分に構築されていないバングラデシュの地方自治体に共通する課題の解決のために、バングラデシュ全国に319あるポルショバの市長や行政官を対象に行われ、ポルショバの行政能力強化策の実施とそのための実施体制・制度の整備、

関係者の能力強化を目指すものです。山口大学は、2013年9月に、国別研修により、バングラデシュから5名の研修員を受け入れましたが、その際、参加者の1人から、バングラデシュ側の経費負担でポルショバ市長を対象に研修を実施してほしいとの要望があり、本研修の実施に至りました。

当日は、開講式、オリエンテーションに続いて、研修員は本学の三浦副学長（国際・地域連携担当）との懇談を行いました。三浦副学長が、山口大学や山口県の紹介と併せて、今後バングラデシュとの交流を発展させていきたいと挨拶したのに対し、研修員を代表して、シャムス氏が、「皆様のご協力に感謝する。いつかバングラデシュがこんな素晴らしい国になったという姿を皆さんにお見せしたい。」と感謝の言葉を述べました。



本研修では、ポルショバ市長間で共通の行政ビジョンについての集中的に検討・協議される予定です。5月27日以降は、山口県庁、山口市、宇部市への訪問や山口市リサイクル・センター、有限会社サンエイ興業、宇部興産株式会社の視察など、5月30日の閉講式まで、4日間のスケジュールで研修が実施されます。

一連の研修がバングラデシュの発展に寄与することを願うとともに、今後、山口大学とバングラデシュの関係深化にも努めていきたいと考えています。

○ 重点連携大学報告会を実施（掲載日：2014/06/03）



5月28日（水）、重点連携大学との共同プロジェクトについての報告会を開催し、学長をはじめ、理事、URAらの参加のもと、研究代表者が成果報告を行いました。

山口大学は、2013年10月に、大学全体のレベルアップと世界大学ランキングの順位上昇を目指し、学術交流協定校の中から、研究力向上につながると期待できる海外の6つの大学を重点連携大学として選定し、経済的なサポート等を行いながら、研究での連携強化を推進しています。

報告会では、重点連携大学と共同研究を行っている6つの研究チームの代表者が、昨年度の活動とその成果、今後の展望等について報告を行いました。報告では「他学部とも連携して、東アジア研究といえば山口大学だと言われるようになりたい」、「山口県内の農業振興に貢献したい」等、国際社会や地域経済も視野に入れて研究活動を発展させていこうという意気込みが語られ、重点連携大学との連携による今後の研究成果に期待が集まりました。



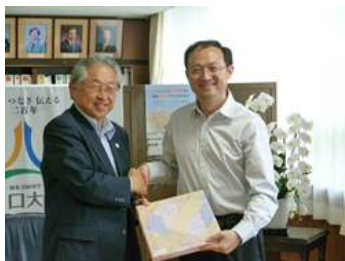
報告後には、学長や理事等から多くの質問があがり、それぞれのプロジェクト代表者との意見交換も行われ、そこから今後の活動への示唆も得て、発展的で有意義な報告会となりました。

山口大学では、今後も重点連携大学との共同プロジェクトを推進し、大学の研究力向上に努め、この分野なら山口大学だと言われるような「強み」を持つ大学を目指していきたいと思っています。

重点連携大学とのプロジェクトは以下のとおりです。

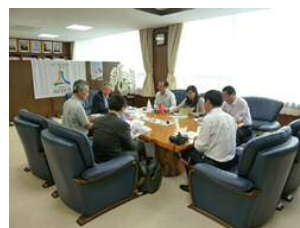
研究代表者 所属・職・氏名	相手先大学名	プロジェクト名
医学系研究科（工） 教授・上村 明男	UCL (ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン)	UCL との連携活動（有機化学分野を中心に）
経済学部 教授・横田 伸子	梨花女子大学校 (韓国)	日本と韓国における労働の非正規化と社会的格差拡大に関する比較研究調査プロジェクト
医学系研究科（医） 教授・清水 昭彦	梨花女子大学校 (韓国)	日本および韓国の看護職における健康に関する信条-Q 分類法を用いた共同研究
理工学研究科（工） 教授・三浦 房紀	ウダヤナ大学 (インドネシア)	国際共同教育，共同研究による衛星リモートセンシング人材育成
共同獣医学部 教授・音井 威重	チュラロンコン大学 (タイ)	ゾウの精子形成解明と異種間での体細胞クローン胚作製
教育学部 准教授・上原 一明	淡江大学 (台湾)	東アジア的文化的アイデンティティ構築におけるメカニズムの解明に向けて
医学系研究科（農） 教授・山田 守	カセサート大学 (タイ)	熱帯性環境微生物資源の開発研究
	チュラロンコン大学 (タイ)	

○ 江蘇大学副学長ら 5 名が来学（掲載日：2014/07/03）



6月20日(金)、中国江蘇大学から張濟建副学長ほか5名が吉田キャンパス及び常盤キャンパス（工学部）を訪れました。

江蘇大学と本学は、グローバル人材育成教育の一環で、日本・中国・韓国の学生の2週間の交流事業である、創成工学サマースクール（SPIED）プログラムで協働しています。これは、工学系の学生を対象に、与えられたテーマに沿って創造設計を行う過程を経験することで、国際的な場での活動・協力についての理解を深め、継続的能力向上に対する意識高揚を図るために、平成25年度から実施しているものです。このたびの訪問では、今年度のSPIEDプログラムの準備状況及び今後の大学間の協力体制についての確認が行われました。



一行はまず、山口市内を訪問した後、吉田キャンパスで、岡学長、三浦副学長（国際・地域連携担当）を表敬訪問しました。会談では、SPIEDプログラムの本学の担当教員である理工学研究科の江鐘偉教授が、江蘇大学との交流の経緯及びSPIEDプログラムに



についての説明をしたのに続き、岡学長が、一行を歓迎して挨拶し、本学と江蘇大学との交流発展への期待を表明しました。これを受けて、張濟建副学長は「今後もSPIEDプログラムを協力して行っていきたい。また山口大学とはダブルディグリープログラムの実施についても今後協議していきたい」と述べました。

一行は続いて、常盤キャンパスへ移動し、工学部附属グローバル技術者養成センターを視察しました。

今回の訪問をきっかけに、本学と江蘇大学との交流が、SPIEDプログラムからさらに発展していくことが期待されます。

○ 重点連携大学セミナーを開催（掲載日：2014/07/09）

第1回重点連携大学セミナーを開催し、カセサート大学および本学から研究者ら約25名が参加しました。

山口大学は、海外の学術交流協定校の中から6つの大学を重点連携大学に指定し、研究交流を強化することで、大学全体の研究力向上を目指しています。カセサート大



学は、20年にわたり、本学農学部を中心とした研究チームと、中高温微生物に関する共同研究プロジェクトを実施しており、今後、益々本プロジェクトの発展が見込めることから、重点連携大学に指定されました。また、本プロジェクトに参加している、タイのチュラロンコン大学とは、他に獣医の分野でも共同プロジェクトが進行中で、本学の複数の研究者が関与していることから、同校も重点連携大学に指定されています。重点連携大学に2校指定されている国はタイのみであることから、タイは重点拠点国にも指定されており、本学の研究にとって必要不可欠なパートナーとなっています。

セミナーでは、初めに、カセサート大学の Siree Chaiseri 副学長から、参加者に対して歓迎の言葉が述べられ、続いて、本学の堀学長特別補佐が、山口大学の重点連携大学および重点拠点国選定に関する取組みを紹介し、「このセミナーをきっかけに、プロジェクトが益々発展することを望む」と挨拶しました。その後、中高温微生物の研究プロジェクトがスタートした当時の学長であり、プロジェクトの遂行に尽力された、Thira Sutrabutra カセサート大学名誉教授が、開会の辞として、「20年前のプロジェクトが、このような形で発展したのを見てできて幸せだ」と、長きにわたる両校の共同研究の歴史を称えました。

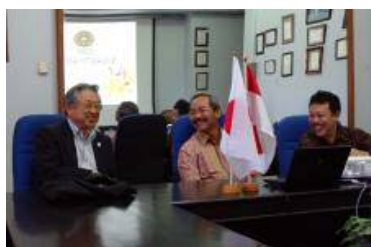
また、本プロジェクトの発展に中心的な役割を果たした、カセサート大学の Gunjana Theeragool 研究科長が、基調講演で、20年間の主な活動と成果をユーモアを交えながら紹介し、会場は和やかな雰囲気になりました。



カセサート大学、チュラロンコン大学、山口大学それぞれの研究者の講演も行われ、山口大学からは、農学部の執行教授が、LEDを利用した植物工場、また、LEDの色の違いが植物の育成に与える影響についてプレゼンテーションを行い、参加者の高い関心を集めました。

本プロジェクトは、日本学術振興会の研究拠点形成事業「バイオ新領域を拓く熱帯性環境微生物の国際研究拠点形成」に採択され、さらなる広がりを見せており、山口大学は、重点連携大学との共同研究をより一層発展させ、研究力の向上に取り組んでまいります。

○ 岡学長がインドネシア・ウダヤナ大学を訪問（掲載日：2014/09/18）



9月4日（木）、9月5日（金）にかけて、岡学長が本学の協定校・重点連携大学であるインドネシアのウダヤナ大学を訪問しました。今回の訪問では、ウダヤナ大学からの要請による医学部での講演と意見交換、大学院委員長との懇談に続いて、スアスティカ学長を表敬訪問し、両大学の連携協力促進について協議を行い、相互の協力関係を確認しました。

また、本学工学部が採択されている文部科学省の「グローバル人材育成推進事業」の一環で同大学に留学している学生の授業見学や、JICAから資金を得て、本学と協力してインドネシアで環境再生支援の事業展開を行っている多機能フィルター（株）の工場も視察しました。



さらに、滞在中には、三浦副学長（国際・地域連携担当）とともに、在デンパサール日本国総領事館を訪問し、柴田和夫総領事と懇談を行いました。懇談の席では、本学の国際連携活動の取組みに関する事、来年には創基200周年を迎え国際総合科学部を開設予定であること、三浦副学長が衛星リモートセンシングを用いた国際共同プロジェクトにより東南アジア等の防災にも貢献していること等を紹介しました。



柴田総領事からは、日本とインドネシアとの交流、本学とウダヤナ大学との学術交流がますます深まっていくことに期待の言葉が寄せられました。

今回の訪問を機に、ウダヤナ大学との連携を通じて学術交流、国際貢献の更なる進展に努めていきます。

○ JSPS 研究拠点形成事業で第1回サテライトセミナー及びジョイントセミナーを開催（掲載日：2014/10/02）



本学が今年度採択された、日本学術振興会研究拠点形成事業『バイオ新領域を拓く熱帯性環境微生物の国際研究拠点形成事業（参加国：日本、タイ、ドイツ、イギリス、ベトナム、ラオス、インドネシア 7カ国）』の一環として、平成26年8月7日および8日にインドネシアのスラバヤにて第1回サテライトセミナーを開催し、続いて8月10日および11日にタイのバンコクで第1回ジョイントセミナーを開催しました。

サテライトセミナーは、参加国で行われる研究セミナーとして、毎年開催する計画であり、ジョイントセミナーは本プログラムに参加する大多数の研究者が参加し、研究成果の紹介とともに他国の研究者と情報交換や交流を行うセミナーであり、隔年で開催する計画です。

インドネシアで開催したサテライトセミナーには、地元企業や教育関係者など200人を超える参加があり、1日目は本学の山田教授およびブラビジャヤ大学のDr. Antonの両

コーディネーターによる本拠点形成事業の紹介を行い、続いて Bank Jatim の頭取や地元政府関係者から拠点形成事業に対する支援に関してインドネシアでの今後の取り組みについて説明がありました。2日目は、スクール形式セミナーとして、日本側参加研究者、ブラビジャヤ大学等の研究者による個別の研究発表があり、今後の国際共同研究に向けて熱心な聴講と活発な質疑が交わされました。



タイで開催したジョイントセミナーには、日本からは北海道大学から琉球大学までの45名、ドイツ2名、イギリス1名、ベトナム2名、ラオス1名、インドネシア2名のほか、タイ全土から100名を超える研究者が参加しました。本セミナーの開会式では、タイ学術会議 (NRCT) 副事務局長が挨拶を行い、続いて本学の三浦副学長から祝辞が述べられました。2日間で2件のキーノート、5つの小課題代表者による課題ごとの紹介



や各課題を代表する研究者による20件の口頭発表、103件のポスター発表が行われ、いずれの発表においても、熱心な聴講と熱気にあふれた議論が行われました。最後に、各国のコーディネーターによる所見が述べられ、今後の本拠点形成事業の発展のための方針が示されました。



○ 農学部の執行教授らが西インド諸島大学 (UWI) および在トリニダード・トバゴ (T&T) 日本国大使を表敬訪問 (掲載日: 2014/10/08)

山口大学では英国ユニバーシティ・カレッジ・ロンドンにて行われた「長州ファイブ渡英150周年記念式典」への参加を機に、英連邦に属する諸国との国際連携の機会を探索してきました。



この度、亜熱帯に属しながら生鮮野菜など西欧型の食のニーズが高いT&TのUWIセント・オーガスティン校から、農学部の執行 正義 教授が中心となって研究開発を進めている植物工場技術 (Shigyo 法) に関する照会があり、平成26年9月8日から11日ま

での間、同教授とともに、仲介した野村 俊夫 客員教授，殿岡 裕樹 URA および共同研究企業である昭和電工からなる訪問団が現地に赴き，UWI 食品・農業学部を訪問して共同研究開発に関する情報交換と意見交換を行いました。



また，一行は在トリニダード・トバゴ日本国大使館より招待を受け，手塚義雅大使を表敬訪問する機会を得ました。この表敬訪問は，山口大学がUWI セント・オーガスティン校にいち早くコンタクトを取り，両国間の交流を推進しようとする進取の気性が評価されて実現したものです。UWI

食品・農業学部長や国際交流室長も同席し，共同研究や人材交流など幅広い分野において連携していくことを大使の前で確認しました。

特に，植物工場についてはプロジェクト化していくことを報告し，大使から「日本とカリブ諸国との架け橋として大使館を活用してほしい」とのコメントを頂きました。今年度中にはUWI 研究者の山口大学訪問なども予定されており，本学初となる中米諸国大学との連携の進展が期待されます。



○ 岡学長らが台湾の4大学（開南大学，静宜大学，東海大学，大葉大学）を訪問 （掲載日：2014/11/04）



10月29日（水）～10月31日（金），岡学長，三浦副学長（国際・地域連携担当），福屋留学生センター長，松本国際・地域連携課長が，台湾の4大学（開南大学，静宜大学，東海大学，大葉大学）を学術交流協定書の調印及び学生交流を中心とした連携・協力関係の強化についての協議を行

うため訪問しました。

4大学は，ともに1万人以上の学生が在学する私立大学で，設立理念の下，特色あるカリキュラムと取組が行われています。特に，英語での教育を積極的に取り入れ，国際化に向けた取組を行い，世界で通用する人材の育成に力を入れています。



このため，平成27年4月に設置する「国際総合科学部」の学生の交換留学先として協議を重ねていましたが，従来の交換学生数の枠に加えて，大学ごとに10人の交換学生



数の追加が決定したため、10月29日には開南大学、10月30日には静宜大学及び東海大学、10月31日には大葉大学において調印式を行いました。

それぞれの大学関係者とは、調印式の前後のスケジュールをぬって、教育・研究面での交流発展のための意見交換を行い、学生交流にとどまらず、今後の友好関係の深化に対する期待の高さが感じられました。

最終日に訪問した大葉大学では、平成22年3月に設置し活動している山口大学台湾国際連携オフィスを視察し、一行からはオフィス関係者に対して、「今後、台湾の南北を繋ぐ拠点として本学のPRを含めた活動の充実を期待する。」との要請がありました。

今回の訪問は、10年後の山口大学像としている「留学生を含む全ての大学人と地域の人々とは、互いの歴史・文化・民族・言語・宗教の違いなど、「多様性を許容」し「アジアの風を感じる」キャンパス（ダイバーシティ・キャンパス）」を持つ大学の創造を目指しての第一歩となるものです。



○SD 研修報告会を開催（掲載日：2014/11/27）



11月18日（火）、吉田キャンパス第2会議室において、平成26年度山口大学職員海外派遣SD（スタッフ・ディベロップメント）研修参加者による帰国報告会を開催しました。

この研修は、本学の職員を海外の協定校へ派遣し、派遣先大学の管理運営方法や教育研究体制を学ぶことにより、本学の現状と課題への理解を深め、業務改善に寄与する人材を育成することを目的に、毎年実施されているものです。今回の報告会では、今年度派遣予定の16名のうち、10月末までに研修を終えた7名の報告が行われ、約60名の教職員が参加しました。



報告会の冒頭、中禮企画戦略部長から、来年度設置予定の国際総合科学部を中心とした大学の国際化および国際総合科学部における交換留学についての話があり、研修参加者に対し、研修で学んだことを、是非将来国際総合科学部で生かしてほしいと挨拶がありました。

研修に参加した職員からは、派遣先大学の先進的な取り組みや、現地職員および学生に対して行ったインタビュー、山口大学や山口県を紹介する様子などとともに、本学が抱える課題や改善すべき点についての報告があり、参加者は真摯に耳を傾けていました。報告後の質疑応答では、今後のSD研修の在り方や、研修で得たものをどのように国際総合科学部で生かすのかについて質問があり、意見交換が行われました。最後に坂本監事が「海外の学生に対して、なぜ山口大学が留学先として最適なのか説明できるように、職員一人ひとりが山口大学の強みおよび特色について考えてほしい」と激励の言葉を述べて、報告会を締めくくりました。



なお、11月以降に派遣された職員による第2回の帰国報告会は、年度末に開催する予定です。

山口大学は、今後も事務職員の人材育成と、特色ある大学づくりに努めていきたいと考えています。

○ 第10回 Young Scientist Seminar (10th YSS) を開催 (掲載日: 2014/12/04)



平成26年11月16日(日)から17日(月)の2日間、山口県セミナーパークで、第10回 Young Scientist Seminar (10th YSS) を開催しました。今回は、大学生及び大学院生を含む日本人63名と、計5カ国からの若手研究者と留学生を含む外国人50名の総勢113名の参加がありました。

本セミナーは、一般的な生物学を研究対象としている多くの若手の研究者が集まり、各々の研究成果を英語で口頭発表し討議を行います。さらに、このセミナーは学生が中心となりその運営を行っています。はじめに実行委員長の Mochamad Nurcholih (山口大学大学院博士課程学生) と岡正朗学長 (山口大学) が開始の挨拶を行いました。



初日は、Dr. Gunjana Theeragool (カセサート大学研究科長) の基調講演と外国人研究者による1題の招待講演があり、その後8つのグループに分かれて口頭発表及び研究討議を行いました。発表題数は90題でした。この研究討議により各グループより代表発表者が選出されました。2日目は三浦房紀副学長 (山口大学) の基調講演、外国人研究者による2題の招待講演とグループより選ばれた若手研究者8名による研究発表が行われ、藤山和也 (山口大学大学院修士課程学生) が Best Presentation Award を獲得し

ました。最後に、本会をサポートする JSPS 研究拠点事業のコーディネーターである山田守教授 (山口大学) と本会のアドバイザーメンバーである高坂智之助教 (山口大学) の挨拶で2日間のセミナーが終了しました。



○ 第8回 Choshu-London シンポジウムを開催 (掲載日: 2014/12/15)



2014年12月1日(月), 常盤キャンパスにおいて, 上村医学系研究科教授が, 英国 University College London (UCL) から招へいた3名の研究者を迎え, 8th Choshu-London Symposium in Chemistry を開催しました。UCL は幕末に長州ファイブが留学した大学で, 彼らを世話した Williamson 教授が UCL 化学科・有機化学の教授で

あったことから, 本学は, この分野での交流を積極的に進め, 学術交流協定を締結し, 博士課程学生の派遣並びにこの Choshu-London シンポジウムを継続して開催しています。また, 現在, UCL を重点連携大学に選定し, 研究連携の強化による研究力アップも目指しています。

シンポジウムでは, 上條, 西形両理工学研究科准教授が座長を務め, UCL 化学科の若手研究者と本学の研究者それぞれ3名が研究発表を行い, 研究者による活発な討論が行われました。約50名の参加者には学生も多く, 彼らにとって海外研究機関の最新研究成果にじかに触れることのできる貴重な経験となりました。



12月4日(木)には, UCL の3名の研究者を交えて研究会を開催し, 工学部・理工学研究科・医学系研究科の有機化学部門の大学院学生による研究発表があり, 研究成果の進捗状況や今後の展開, あるいは将来の展望について, 幅広いディスカッションが英語で行われました。今後, UCL とは, 眼科分野での交

流も始まる見通しで、有機化学分野から化学全般に交流の輪を広げるなど、交流を大学全体に拡大していく予定です。そして、双方向の研究者交流・学生交流を通じて、信頼関係を強め、緊密な国際共同研究協力へと発展させていきます。

海外大学／大学院留学説明会を開催（掲載日：2015/01/14）



1月9日（金）、山口大学の吉田キャンパスと常盤キャンパスを遠隔講義システムで結び、米国大学院学生会と共催で海外大学／大学院留学説明会を開催しました。

米国大学院学生会は、米国学位留学経験者による団体で、学位留学を志す日本人学生に、留学に関する情報やノウハウを提供しています。山口大学は、本年4月に国際総合科学部を開設し、学生に1年間の交換留学を義務づけるなど、現在、大学をあげて「学生の国際化」に取り組んでおり、本説明会は、これからの時代に求められる国際マインド、在学中の留学、卒業後の学位留学についての最新の情報を提供し、留学に役立ててもらおうと実施されたものです。

説明会の冒頭、福屋留学生センター長による、グローバルに活躍できる人材像についての説明があり、岡学長の挨拶に続いて、宇部市出身で、米国大学院学生会所属の金子美穂さん、本学留学生センターの仁平講師、船井情報科学振興財団の選考委員で、本学経営協議会委員の益田隆司東京大学名誉教授が講演を行いました。それぞれ、大学院留学の手続き方法や、自身の留学体験、日米の大学比較、特に、アメリカの大学の人材の流動性という特徴について説明し、興味深い内容でした。

講演終了後にはパネルディスカッションを行い、パネリストとして、講演者に加え、文部科学省グローバル人材育成推進事業で技術留学の経験をもつ、大学院医学系研究科の渡邊竜介さんと石川万莉さんも参加し、自身の体験を交えながら、質問に答えました。会場の留学経験者も体験談を語るなど、活発なディスカッションとなりました。

山口大学は、本説明会をきっかけに、多くの学生が「海外留学」に関心を持ち、将来の進路の選択の幅を広げてくれることを願っています。



○ 山口大学「国際協力の里」特別講演会～魅力あふれる台湾-台湾ってどんなところ？
-～を開催（掲載日：2015/01/23）



1月20日（火），大学会館大ホールで，公益財団法人交流協会理事長の今井正氏を講師に迎え，特別講演会「魅力あふれる台湾-台湾ってどんなところ？-」を開催し，学内外から約90人が参加しました。

山口大学は，本年4月に新しく国際総合科学部を開設し，国際的に活躍する人材の育成と地域の活性化を目指しており，当学部の学生には，1年間の交換留学を義務づけるなど，現在，大学をあげて「学生の国際化」に取り組んでいます。これに伴い，特に台湾の協定校との交流がますます盛んになり，関係が深まることから，主に学生にさまざまな観点から台湾を知ってもらおうと，本講演会を開催したものです。

講演会では，三浦副学長（国際・地域連携担当）の挨拶に続いて，今井氏が講演を行い，台湾の魅力を紹介しました。

山口県出身の今井氏は，山口の思い出について語った後，自身の海外経験を通じて感じた，異文化理解，コミュニケーションの重要性について述べ，「異文化に接することで，人間の奥行きが生まれる。海外の人たちは，自分とはまったく逆の視点で物事を見ており，逆転の発想が可能になる」と強調しました。



続いて今井氏は，本学が，隣国である台湾を異文化交流強化の最初の相手国とすることに理解を示したうえで，台湾の歴史，政治，経済についての説明を行いました。氏は，日・中・台の関係，また，それに伴う台湾のアイデンティティの確立の難しさについて述べ，日本と台湾は，心と心がつながった重要なパートナーであり，政府ではなく，実務担当者が交流の担い手であると熱く語りました。

講演後の質疑応答でも，台湾の親日感情について，さまざまな要素が入り組んだうえでの結果であり，日本から恩恵を受けた結果だという傲慢な考えを持つてはならないと強調しました。

山口大学は，今後もこのような講演会を通じ，学生のみならず教職員も，海外の国々への理解を深め，国際化に対する意識を高めて，全学でグローバル化を推進していきたいと考えています。

カンボジア運動会プロジェクト壮行式を開催（掲載日：2015/03/11）

3月3日（火），吉田キャンパス事務局2号館第2会議室にて，「カンボジアの子どもたちに学校体育の素晴らしさを届けるプロジェクト（略称：運動会プロジェクト）」の壮行式を開催し，参加する学生らを激励しました。



本プロジェクトは，運動会を通して，現地の子どもたちに体育の楽しさを知ってもらい，体育授業の確立につなげたいとの思いから，平成24年度に開始されたものです。4期目となる今回は，本学教育学部保健体育教室と中村学園大学，近畿大学九州短期大学，西南学院大学の学生および教員が参加しています。また，活動当初から行っている文具の寄贈も予定しており，寄付への呼び掛けには，多くの方々からご支援をいただきました。

式では，三浦副学長（国際・地域連携担当）から，「無理をせず，健康に留意し，危機管理に十分配慮しながら，子どもたちに体育の素晴らしさを伝えてきてください。報告を楽しみにしています。」と激励の挨拶がありました。これを受けて，今期の学生団長である河村朋彦



さん（教育学部3年）が，「渡航が近づくにつれて，緊張と責任感が増している。多くの方々に支えられて活動ができることを忘れずに，自分たちがやるべきことをしっかりと行いたい。」と決意を述べました。また，運動会係長を務める丸山航平さん（教育学部3年）の挨拶では，運動会の実施内容とともに，体育授業の確立のための新たな試みとして，現地の教諭を運動会スタッフに加えることが説明されました。その後，プロジェクトに参加する学生一人ひとりから意気込みが語られ，最後に，プロジェクトの代表者である海野教授が，「寄付をしてくださった方々をはじめ，サポートしてくださっている多くの人達の想いも一緒に実現させたい。また，このプロジェクトが，カンボジアで健全な教育が提供されるためのきっかけとなるように，しっかりと頑張ってきたい」と挨拶しました。

学生らは、3月5日に日本を出発し、カンボジアで1週間活動した後、3月14日に帰国する予定です。このプロジェクトが、カンボジアの体育教育の一助になるとともに、本学学生一人ひとりの成長につながることを期待しています。



SD 研修報告会を開催（掲載日：2015/03/27）



3月23日（月），吉田キャンパス第2会議室において，平成26年度山口大学職員海外派遣SD（スタッフ・ディベロップメント）研修参加者による，2回目の帰国報告会を開催しました。

この研修は，本学の職員を海外の協定校へ派遣し，派遣先大学の管理運営方法や教育研究体制を学ぶとともに，職員の国際化への意識および能力向上を目的として実施しています。今回の報告会では，今年度派遣した16名のうち，11月以降渡航した8名が報告を行ないました。

研修参加者は，自身の担当業務に関連した派遣先大学における先進的な取り組みや，国際関係業務の実施体制などについて，写真を披露しながら報告するとともに，研修先で得た知識に基づいた業務改善案を発表しました。



報告終了後は，質疑応答が行われ，最後に坂本監事から，業務の改善の実現に向けた助言が述べられました。

山口大学は，今後も「明日の山口大学ビジョン2015」に記したダイバーシティ・キャンパスの実現を目指し，教職員を含めた大学全体のグローバル化を推進していきます。平成26年度SD研修の派遣先等一覧

研修参加者	派遣期間	派遣先
農学部 学務係 背戸 英明	6月21日～29日	シドニー工科大学 ニューカッスル大学
学生支援部 学生支援課 就職企画係 東 真知子	8月4日～7日	大葉大学
工学部 総務企画課 人事・職員係 池田 京平		
学術研究部 産学連携課 研究契約係 金子 晃	9月8日～13日	ガジャマダ大学

情報環境部 学術情報課 工学情報係	森實 彩乃		
総務部 人事課 人事総務係	松原 友紀		
企画戦略部 企画・評価課 企 画係	足立 正博	10月26日～ 11月2日	リジャイナ大学
農学部 学務係	鬼武 昭典		
医学部 総務課 企画・評価係	佐伯 成実	11月10日～14日	チェンマイ大学
農学部 総務企画係	河上 喜弘		
学生支援部 教育支援課 教員免許係	塩田 友貴		
学生支援部 学生支援課 学生サービス係	池田 祐希子	1月6日～10日	ウダヤナ大学
総務部 人事課 服務管理係	新井 翼		
企画戦略部 国際・地域連携課 国際連携係	服部 直樹	1月20日～24日	山東大学
学生支援部 学生支援課 留学生交流係	池谷 周平		
企画戦略部 国際総合科学部設置準備室 総務企画係	西村 章宏	2月15日～21日	UTM, MJIIT シーナカリンウィロ ート大学 ウダヤナ大学

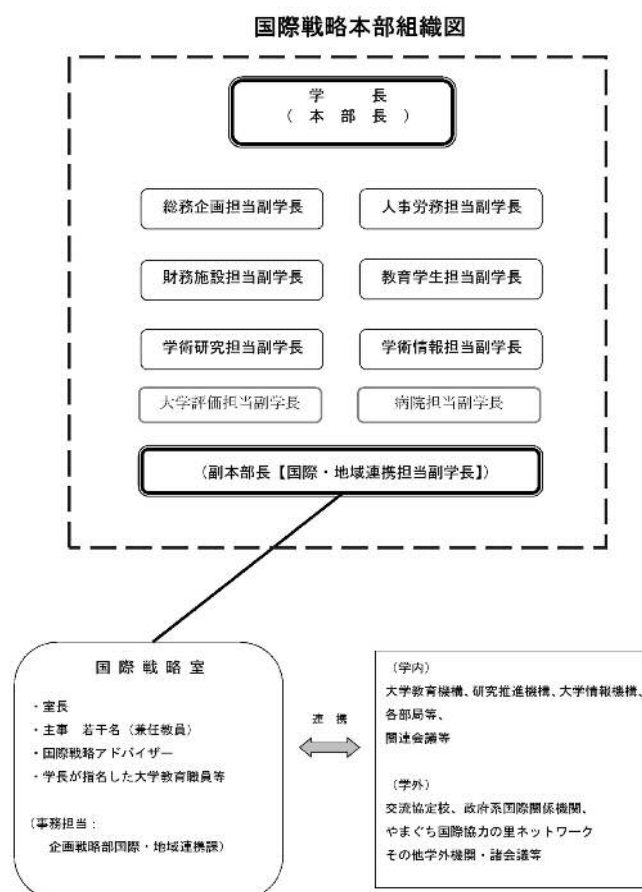
※ 所属は派遣時のもの

2. 国際戦略本部及び国際戦略室

(1) 国際戦略本部，国際戦略室の組織と役割

2008年4月に学長を本部長とする国際戦略本部が設置され，国際化に関する大学としての企画立案体制が整備された。また，国際戦略本部の下に，学長特別補佐，教員及び職員を構成員とする国際戦略室(以下，「戦略室」)を置き，国際戦略の企画立案を推進することとした。2010年に副学長が増員されたことに伴い，国際戦略本部の構成員も変更され，国際・社会連携担当学長特別補佐に代わり，新設された副学長(国際・地域連携担当)が，国際戦略本部副本部長 兼 国際戦略室長となった。さらに，国際戦略室の活動を支援する事務組織として，総合企画部国際・社会連携チームが置かれていたが，2012年に，名称を学長戦略部国際・社会連携課に変更し，より一層学長の意思を反映する体制を整えた。なお，同課は，2013年に，課名を国際・地域連携課に，2014年には，部名を企画戦略部にそれぞれ変更し，現在は，企画戦略部国際・地域連携課となっている。

国際戦略本部，国際戦略室の関係及び各構成員は，次の組織図のとおりである。



国際戦略本部，国際戦略室の業務は次のように定められている。

・国際戦略本部の業務

- (1) 教育研究活動における国際的な活動に係る国際戦略に関すること。
- (2) その他国際戦略に関する重要な施策に関すること。

・国際戦略室の業務

- (1) 国立大学法人山口大学の国際連携に係る企画，立案及び実施に関すること。
- (2) 国際交流に関する情報の収集，整理及び提供に関すること。
- (3) 国際協力に関すること。
- (4) 学術交流協定に基づく活動の推進に関すること。
- (5) 海外に向けた大学の国際交流に係る情報の発信に関すること。
- (6) その他国際戦略活動に係る重要事項に関すること。

3. 学術交流協定

(1) 2014年度の学術交流協定の締結等

2014年度は学術交流協定を16大学(大学間9大学，学部間7大学)と締結し，20の大学・機関(大学間16大学，学部間4大学)と更新した。

その結果，2015年3月末現在で，大学間では，17ヶ国，59大学・機関と学術交流協定を締結，学部間では，本学の8学部，2研究科が20ヶ国，47件の学術交流協定を締結していることとなった。



【2014.10 台湾 大葉大学で学術交流協定調印式に臨んだ本学 岡学長と大葉大学 武学長】

(2) 大学等間学術交流協定

国・地域	機関 (英語表記)	締結年月日	学生交流覚書
インドネシア	ブラウイジャヤ大学 (Brawijaya University)	2008.04.15	有
	ガジヤマダ大学 (Gadjah Mada University)	2008.10.14	
	ボゴール農科大学 (Bogor Agricultural University)	2010.03.10	
	ウダヤナ大学 (Udayana University)	2010.03.25	
	バンドン工科大学 (Institut Teknologi Bandung)	2012.05.25	有
韓国	仁荷大学校 (Inha University)	1998.06.25	有
	公州大学校 (Kongju National University)	1999.03.15	有
	韓国外国語大学校 (Hankuk University of Foreign Studies)	2003.12.02	有
	慶尚大学校 (Gyeongsang National University)	2004.11.26	有
	ソウル市立大学校 (University of Seoul)	2009.12.21	有
	昌原大学校 (Changwon National University)	2010.02.10	有
	ソウル大学校 (Seoul National University)	2010.02.11	有
	亜州大学校 (Ajou University)	2010.03.08	有
	梨花女子大学校 (Ewha Womans University)	2010.03.08	有
	群山大学校 (Kunsan National University)	2010.04.26	有
	釜山外国語大学校 (Busan University of Foreign Studies)	2014.12.04	有
タイ	カセサート大学 (Kasetsart University)	1998.07.03	有
	ソククラ王子大学 (Prince of Songkla University)	2001.10.29	有
	コンケン大学 (Khon Kaen University)	2001.10.30	有
	チェンマイ大学 (Chiang Mai University)	2001.10.31	有
	シーナカリンウィロート大学 (Srinakharinwirot University)	2001.11.01	有
	タイ国農学研究機構 (Agricultural Research Development Agency)	2008.08.27	
	チュラロンコン大学 (Chulalongkorn University)	2010.09.14	
中国	山東大学 (Shandong University)	1983.06.02	有
	北京師範大学 (Beijing Normal University)	2004.02.09	有
	武漢理工大学 (Wuhan University of Technology)	2004.05.20	有
	貴州大学 (Guizhou University)	2005.03.25	有
	重慶理工大学 (Chongqing University of Technology)	2010.11.19	有 (工学部)
	首都師範大学 (Capital Normal University)	2011.10.17	有

中国	江蘇大学 (Jiangsu University)	2013.09.03	有
	大連外国語大学 (Dalian University of Foreign Languages)	2013.12.30	有
台湾	国立中興大学 (National Chung Hsing University)	2006.03.09	有
	東海大学 (Tunghai University)	2009.09.30	有
	逢甲大学 (Feng Chia University)	2009.09.30	有
	大葉大学 (Dayeh University)	2009.09.30	有
	静宜大学 (Providence University)	2009.09.30	有
	開南大学 (Kainan University)	2012.10.15	有
	高雄師範大学 (National Kaohsiung Normal University)	2014.11.18	有
ベトナム	教育訓練省 国際教育開発局 (Vietnam International Education Development, Ministry of Education and Training)	2009.03.30	有 (相互協力附属書)
	カントー大学 (Can Tho University)	2011.11.16	有
	ベトナム国立農業大学 (Vietnam National University of Agriculture)	2012.03.29	有
マレーシア	サラワク大学 (Universiti Malaysia Sarawak)	2012.03.29	
	マレーシア工科大学 (Universiti Teknologi Malaysia)	2012.09.05	有
ラオス	ラオス国立大学 (National University of Laos)	2012.04.12	有
ミャンマー	イエジン農業大学 (Yezin Agricultural University)	2015.01.12	
イギリス	シェフィールド大学 (University of Sheffield)	1997.11.28	有 (教育学部)
	ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン (University College London)	2007.11.19	有 (工学部)
	セントラル・ランカシャー大学 (University of Central Lancashire)	2012.11.05	
ドイツ	エアランゲン・ニュルンベルク大学 (Friedrich-Alexander University Erlangen-Nuremberg)	2003.03.17	有
	ホフ大学 (Hof University of Applied Sciences)	2015.03.16	有
スペイン	サラゴサ大学 (University of Zaragoza)	2014.11.27	有 (工・共同獣医)
ロシア	モスクワ大学 (M.V. Lomonosov Moscow State University)	2015.03.05	
エジプト	カイロ大学 (Cairo University)	2012.02.12	
アメリカ 合衆国	オクラホマ大学 (University of Oklahoma)	1996.02.19	有
	ハワイ大学ヒロ校 (University of Hawai'i at Hilo)	2015.02.25	
	カリフォルニア州立大学ポリテクニク大学ポモナ校 (California State Polytechnic University, Pomona)	2015.03.20	
カナダ	リジャイナ大学 (University of Regina)	1996.02.07	有
オースト ラリア	ニューカッスル大学 (University of Newcastle)	2003.08.08	有 (工学部)
	シドニー工科大学 (University of Technology, Sydney)	2012.05.30	有

(3) 部局等間学術交流協定

国・地域	締結部局	機関 (英語表記)	締結 年月日	学生交流 覚書
インドネシア	工学部	マランイスラム大学 医学部 (Faculty of Medicine, Universitas Islam Malang)	2014.06.27	
		マランイスラム大学 農学部 (Faculty of Agriculture, Universitas Islam Malang)	2014.06.27	
		リアウ大学 工学部 (Faculty of Engineering, Riau University)	2014.12.24	有
韓国	教育学部	釜山大学校 師範大学 (College of Education, Pusan National University)	2010.06.21	
	理学部	韓国天文研究院 電波天文研究部 (Radio Astronomy Division, Korea Astronomy and Space Science Institute)	2010.03.15	
	工学部	忠北大学校 工科大学 (College of Engineering, Chungbuk National University)	2001.10.10	
		全北大学校 工科大学 (College of Engineering, Chonbuk National University)	2004.03.19	
		又松大学校 鉄道物流大学 (College of Railroad and Transportation, Woosong University)	2010.02.01	
農学部	忠南大学校 農業生命科学大学 (College of Agriculture and Life Science, Chungnam National University)	2000.05.18		
タイ	医学部	マヒドン大学 看護学部 (Faculty of Nursing, Mahidol University)	2001.03.26	
	農学部	キングモンクット工科大学 トンブリ校 生物資源工学研究科 (School of Bioresources and Technology, King Mongkut's University of Technology Thonburi)	2006.05.23	有
		タクシン大学 技術・地域開発学部 Faculty of Technology and Community Development, Thaksin University)	2012.01.16	
		メージョー大学 農学生産学部 (Faculty of Agricultural Production, Maejo University)	2012.02.23	有
		ラジャマンガラ工科大学 農業産業技術学部 (Faculty of Agro-Industrial Technology, Rajamangala University of Technology Tawan-ok)	2013.07.11	有
中国	教育学部	復旦大学 情報科学工程学院 (School of Information Science and Engineering, Fudan University)	2005.09.23	有
	経済学部	遼寧大学 経済学院 (School of Economics, Liaoning University)	1996.10.17	
		中国人民大学 経済学院 (School of Economics, Renmin University of China)	2001.06.03	有
	医学部	吉林大学 中日聯誼病院 (China-Japan Union Hospital of Jilin University)	2009.09.25	
		大連医科大学 (Dalian Medical University)	2006.12.14	
	工学部	上海交通大学 環境科学与工程学院 (School of Environmental Science and Engineering, Shanghai Jiao Tong University)	2004.02.11	
		西華大学 (Xihua University)	2007.02.05	有
	農学部	新疆畜牧科学院 (Xinjiang Academy of Animal Science)	1991.09.02	
		東北師範大学 都市・環境科学学院 (School of Urban and Environmental Sciences, Northeast Normal University)	2010.04.15	
	東アジア 研究科	復旦大学 日本研究センター (Center for Japanese Studies, Fudan University)	2001.10.29	

台湾	経済学部	国立高雄餐旅大学 (National Kaohsiung University of Hospitality and Tourism)	2012.03.09	有
	医学部	国立台湾大学 医学院 (College of Medicine, National Taiwan University)	2009.04.01	
	教育学部	淡江大学 文学院 (College of Liberal Arts, Tamkang University)	2013.07.23	有
	東アジア研 究科	淡江大学 亜洲研究所 (Graduate Institute of Asian Studies, Tamkang University)	2014.04.01	
	人文学部	東呉大学 人文社会学院 (School of Liberal Arts and Social Sciences, Soochou University)	2014.09.19	
ネパール	連合獣医学 研究科	農業林業大学 畜産獣医水産学部 (Faculty of Animal Science, Veterinary Science and Fisheries, Agriculture and Forestry University)	2015.03.05	
バングラ デシュ	理学部	バングラデシュ核エネルギー・食物・放射線生物学研究所 (Institute of Food and Radiation Biology, Atomic Energy Research Establishment)	2000.05.04	
	農学部	ジャハンギナガル大学 生物科学部 (Faculty of Biological Science, Jahangirnagar University)	2012.03.06	
ベトナム	理学部	ハノイ理工科大学 応用数学・情報科学部 (Faculty of Applied Mathematics and Informatics, Hanoi University of Science and Technology)	2010.11.20	有
	共同獣医学 部	ベトナム農業農村開発省畜産研究所 (National Institute of Animal Science, Ministry of Agriculture and Rural Development)	2012.07.24	
スリラン カ	農学部	サバラガムア大学 農学部 (Faculty of Agricultural Sciences, Sabaragamuwa University of Sri Lanka)	2014.01.23	有
ウクライ ナ	教育学部	イヴァン・フランコ記念リヴィウ国立大学 (Ivan Franko National University of L'viv)	2004.11.16	有
イギリス	工学部	ブリストル大学 工学部 (Faculty of Engineering, University of Bristol)	2010.03.01	
ロシア	医学部	カザン医科大学 (Kazan State Medical University)	2012.12.17	
ポルトガ ル	工学部	新リスボン大学 理工学部 (Faculty of Science and Technology, Universidade Nova de Lisboa)	2013.08.08	有
フランス	工学部	ボルドー大学 (Universite de Bordeaux)	2014.03.11	有
スペイン	工学部	カンタブリア大学 産業工学通信学部 (School of Industrial Engineering and Telecommunications, University of Cantabria)	2015.02.25	有
アメリカ 合衆国	医学部	テキサス大学 ヒューストン健康科学センター看護学部 (Health Science Center at Houston, University of Texas)	1999.03.29	
		バージニア大学 看護学部 (School of Nursing, University of Virginia)	2000.11.06	
ブラジル	理学部	パウリスタ総合大学 (Paulista State University)	2001.10.31	有
アルゼン チン	農学部	ラプラタ大学 理学部 (Faculty of Science, National University of La Plata)	2011.04.27	
オースト ラリア	教育学部	キャンベラ大学 (University of Canberra)	1994.03.15	
ニュージ ーランド	農学部	ニュージーランド作物・食物研究所 (New Zealand Institute for Plant & Food Research Limited)	2008.09.03	

4. 海外拠点

現在多くの日本の大学が、留学生募集や海外の大学との共同研究拠点、共同授業の提供等を目的として、海外に事務所を開設している。山口大学でも、交流協定校との連携協力によるサテライトオフィスを、2004年10月に中国の北京師範大学に、2005年3月に山東大学に設置した。主な活動は留学情報の提供である。

2009年度、海外拠点の実質化と拠点事務所増設の方針により、中国の2つのオフィスに加え、インドネシアと台湾の3大学にも新たに事務所を開設した。

さらに、2011年度には北京の首都師範大学内に、2014年度にはクアラルンプールのマレーシア工科大学内に拠点事務所を設置するとともに、インドネシア・ジョグジャカルタの拠点の見直しを図り、現在は、以下の6拠点の体制となっている。

- ① 「山口大学 北京国際連携オフィス」
住所：中国 100875 北京市新街口外大街 19 号 北京師範大学内
- ② 「山口大学 北京国際連携オフィス」
住所：中国 100048 北京市海淀区西三環北路 83 号 首都師範大学内
- ③ 「山口大学 山東国際連携オフィス」
住所：中国 250100 山東省済南山大南路 27 号 山東大学内
- ④ 「山口大学 バリ国際連携オフィス」
住所：Udayana University
Jl.P.B Sudirman Campus Gedung FISIP 2F Denpasar Bali Indonesia
【<http://yamaguchi.unud.ac.id/home>】
- ⑤ 「山口大学 台湾国際連携オフィス」
住所：台湾 51591 彰化県大村郷学府路 168 号 大葉大学内
【<http://yuicot.dyu.edu.tw/>】
- ⑥ 「山口大学 クアラルンプール国際連携オフィス」
住所：Malaysia-Japan International Institute of Technology (MJIT)
Universiti Teknologi Malaysia Kuala Lumpur Campus
Jalan Semarak, 54100, Kuala Lumpur Malaysia



台湾国際連携オフィスのホームページ

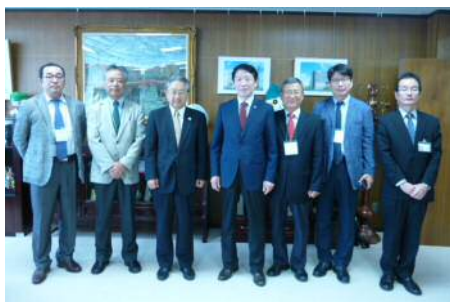


クアラルンプール国際連携オフィスのプレート

5. 本部への海外からの来訪者

(1) 本部への海外からの来訪者一覧

日時	訪問者	国・地域名
2014.6.20	江蘇大学 副学長 Mr. Zhang Jijian	中国
2014.7.14	ラジャマンガラ工科大学 副学長 Ms. Khomduen Phothisuwan	タイ
2014.9.1	静宜大学 准教授 Mr. Fang-Chi Tseng	台湾
2014.9.26	群山大学校 学長 Mr. Na Eui-gyun	韓国
2014.10.17	バレンシアカレッジ 職員	アメリカ
2014.10.21	獣医国際認証評価委員	フランス, チェコ
2014.10.28	重慶理工大学 副学長 Mr. Huang Weijiu	中国
2014.12.10	ニューカッスル大学 副学長 Mr. Andrew Parfitt	オーストラリア
2015.1.16	山東大学 職員 (SD 研修)	中国
2015.1.23	ウエストハンガリー大学 教員 Mr. Habil.Vorisz EGRI	ハンガリー
2015.3.3	ネパール農業林業大学 畜産獣医水産学部長 Mr. Ishwari Prasad.Dhakal	ネパール
2015.3.23	MJIIT 院長 Ms. Rubiyah Yusof	マレーシア



群山大学 学長表敬訪問



獣医国際認証評価委員 学長表敬訪問



重慶理工大学 副学長表敬訪問



MJIIT 学長表敬訪問

6. 本学学長等の海外訪問

訪問日程	訪問先・内容（訪問者）	国・地域名
2014.6月	開南大学学長会議出席	台湾
2014.8月	第一回 CCP ジョイントセミナー出席	タイ
2014.9月	ウダヤナ大学訪問	インドネシア
2014.10月	開南大学，静宜大学，東海大学，大葉大学訪問 学術交流協定書の調印	台湾

7. その他

(1)国際協力活動推進プラットフォーム

国際協力活動に関心を有する山口大学教職員の有志が，地域を含めた国際協力活動の推進役としての役割を担う目的で，2007年11月に「国際協力活動推進プラットフォーム」を発足している。発足以来，国際協力関係有識者による講演，意見交換会の開催，国際協力事業説明会の開催，会員の海外派遣(各種調査，協力活動)，研究者の招聘，会員の国際協力関係の研修参加等を行っている。

国際協力活動推進プラットフォームの2014年度の主な活動は以下のとおりである。

- ・カンボジア王国における国際教育協力事業－カンボジア王国 Siem Reap 州教員研修支援のモデル構築に関する研究－
- ・カンボジア運動会プロジェクト
- ・エタノール高温発酵生産実証実験に向けた現地調査－ベトナムにおける産学公連携国際協力推進事業－
- ・ミャンマーにおける野菜の品種改良の事業化による農業の振興案件化調査

(2)国際会議，国際シンポジウムの開催

山口大学の教員・研究者が海外の大学を訪問し，また海外で開催される各種学会・シンポジウム等に参加するばかりでなく，海外の研究者，要人が参加する国際シンポジウム等を，山口大学が中心となって大学や周辺地域において開催する機会が年々増えてきている。2014年度においては次表のとおり講演会を開催した。

国際シンポジウム等開催状況（2014年度）

	名称	期日
1	山口大学「国際協力の里」特別講演会 「～魅力あふれる台湾-台湾ってどんなところ??～」	2015/1/20（火）

(3) 政府開発援助（ODA）との連携

山口大学では、「国際協力銀行」（ODA 担当部門は、2008 年 10 月に「国際協力機構（JICA）」と統合した。）との間で、2004 年 5 月 7 日に「国際協力銀行と山口大学との海外経済協力分野に関する協力協定書」を締結し、また教育学部、経済学部が JICA（中国国際センター）との間で 2006 年 3 月 27 日に「JICA 中国国際センターと山口大学との連携協力覚書」を締結している。（※これらは「独立行政法人国際協力機構と山口大学との間の連携協定」に 1 本化し、本学学長と JICA 理事長の間で 2010 年 6 月 1 日に署名・締結された。）

こうした ODA 実施機関との連携も踏まえ、山口大学は現在まで以下のとおり ODA 事業の実施に協力してきており、2014 年度における実績は以下のとおりである。

- ・無償資金協力による留学生受入(JDS プログラム)： 2002 年以降毎年 JDS プログラムによる留学生を受け入れており、2014 年度は、バングラデシュから 2 名、ラオスから 2 名、ミャンマーから 2 名の留学生を受け入れた。現在までにバングラデシュから 31 名、インドネシアから 3 名、フィリピン 1 名、ラオス 4 名、ミャンマー 2 名の計 41 名受入れている。(在学生を含む。)
- ・技術協力による留学生受入：未来への懸け橋・中核人材育成プロジェクト（PEACE プロジェクト）により、アフガニスタンからの留学生受入れを、2012 年度から開始し、現在までの総受入れ人数は 4 名である。
- ・研修員受入： 工学部において短期研修員(東ティモール, 3 名)。
経済学部において国別研修による研修員（バングラデシュ, 16 名）
- ・JICA 協力授業：経済学部において「国際協力論」を開講。JICA より職員、専門家経験者、協力隊帰国隊員の講師派遣。本授業は 2006 年度から開講している。
- ・青年海外協力隊：学生を対象とする特別募集説明会の開催、協力隊募集ポスターの掲示。自主活動ルームコーディネーター、国際戦略室教員による希望学生指導。帰国者による報告会の開催。
- ・ODA 資金による、中小企業の海外展開支援（多機能フィルター(株)のインドネシアでの展開）

(4) ODA 事業との連携実績

① 留学生受け入れ

プロジェクト	受入学部・研究科	対象国・地域
○人材育成支援無償（JDS）による留学生の受入	経済学研究科	バングラデシュ
○有償資金協力（円借款）による留学生の受入		
・高等教育基金借款事業（III）	工学部	マレーシア
・国立イスラム大学	医学系研究科	インドネシア

・高等人材開発事業（Ⅲ）	理工学研究科	インドネシア
--------------	--------	--------

②技術協力プロジェクト

プロジェクト	形態	分野	対象国・地域
カンボジア日本人材開発センター（H16年4月1日～H21年3月31日）	技術協力	民間セクター開発	カンボジア
ラオス日本人材開発センター(2)ビジネス分野活動等支援（第1次）(H20年12月～H21年9月)	技術協力	民間セクター開発	ラオス
天然ゴム産業の振興と金融機能に係る提案型調査（H19年度）	円借款	民間セクター開発	カンボジア
貴州省における人材育成プログラム開発に係る提案型調査	円借款	人材育成	中国
東ティモール大学工学部能力向上プロジェクトへの協力	技術協力	人材育成	東ティモール

③専門家派遣

プロジェクト	形態	派遣期間	対象国・地域
個別専門家（初中等教育計画）	長期	2005年1月～ 2007年1月	フィリピン
理数科教員養成（生物教育）	短期	2005年8月～9月	ラオス
経済法（企業関連法）整備支援終了時評価調査	短期	2007年11月～12月	中国
法制度整備支援基礎情報収集・確認調査	短期	2009年1月～2月	ラオス
民間セクター振興プログラム	短期	2008年3月	カンボジア
持続可能な地域観光振興	短期	2008年4月～5月	ドミニカ
平成18年度 円借款事業事後評価業務	短期		中国
東ティモール大学工学部能力向上プログラム詳細計画策定調査	短期	2010年10月 2011年3月	東ティモール
タンザニア国灌漑農業技術普及支援体制強化計画運営指導調査	短期	2011年2月	タンザニア

東ティモール大学工学部能力向上プログラム詳細計画策定調査	短期	2011年11月 2012年3月	東ティモール
マレーシア日本国際工科院技術経営学部のカリキュラム設定, 教員募集についての協議に係る調査	短期	2012年1月	マレーシア
東ティモール大学工学部能力向上プログラム詳細計画策定調査	短期	2012年8月 2013年3月	東ティモール
ミャンマー法整備支援詳細計画策定調査	短期	2012年12月	ミャンマー
東ティモール大学工学部能力向上プログラム詳細計画策定調査	短期	2013年8月 2013年9月 2013年12月 2014年1月 2014年3月	東ティモール
タンザニア国コメ振興支援計画プロジェクト運営指導調査	短期	2013年10月	タンザニア
東ティモール大学工学部能力向上プログラム詳細計画策定調査	短期	2014年9月 2014年10月 2015年2月 2015年3月	東ティモール
タンザニア国コメ振興支援計画プロジェクト運営指導調査	短期	2014年6月	タンザニア

④研修員受入

コース名	形態	受入期間	国・地域名
花き園芸	個別	1996年3月～12月	ケニア
地震観測システム	個別	1996年12月～1997年3月	トルコ
地震解析	個別	1996年12月～	トルコ

		1997年3月	
環境工学	個別	1997年3月～7月	インドネシア
地震観測システム	個別	1998年3月～5月	トルコ
獣医学（小型動物内視鏡）	日系個別	1998年4月～1999年4月	ブラジル
消化器内視鏡	個別	1999年1月～2月	アルゼンチン
節水灌漑	個別	1999年3月～6月	中国
看護学	日系個別	1999年4月～2000年3月	ブラジル
カロチン抽出分離	個別	1999年8月～10月	マレーシア /2名
土地水質源管理学	個別	2001年8月～11月	ベトナム
土地資源管理	長期研修	2001年9月	ベトナム
繁殖ホルモン測定技術の応用	個別	2004年8月～9月	ベトナム
現職教員研修	集団	2005年10月～11月	フィリピン
高品質肉牛の管理と繁殖	日系個別	2009年5月～2010年2月	ブラジル
稲研究人材育成	長期研修	2009年9月～2011年8月	タンザニア
参加型農村開発	短期	2009年10月	バングラデシュ /2名
高品質勝久野効率的・効果的な生産、繁殖、衛生管理のための獣医・畜産学的なビジョン	日系個別	2011年5月～2012年2月	ボリビア
東ティモール国立大学工学部土木学科教官短期研修	短期	2011年11月	東ティモール
高品質家畜の効率的・効果的な生産、繁殖、衛生管理のための獣医・畜産学的な新ビジョン	日系個別	2012年5月～2013年2月	ペルー
東ティモール国立大学工学部土木学科教官短期研修	短期	2012年10月	東ティモール
東ティモール国立大学工学部土木学科教官短期研修	短期	2013年7月～8月	東ティモール

		2014年2月	
バングラデシュ地方行政能力強化研修	国別	2013年9月	バングラデシュ
バングラデシュ地方行政能力強化研修	国別	2014年5月	バングラデシュ

⑤ JICA 協力授業

- ・ 国際協力論 JICA の歩みと役割他 (各年 3~5 コマ) 経済学部
- ・ 国際協力概論 開発途上国の現状と課題, 有償資金協力の仕組みと課題, 有償資金協力の事例紹介 (各年 2 コマ) 工学部

(5) 研究者の交流

大学の主要な活動である研究においては, 十分なデータの収集, 研究データの交換による研究の加速化と精度の向上は不可欠であり, 毎年多くの教員, 研究者が海外に派遣され, また山口大学でも多くの海外の大学教員, 研究者を受け入れている。国際研究・教育ネットワークを通して, 共同研究, シンポジウムの開催, 授業の相互提供といった活動が行われている。

2014 年度には延べ 997 人の教員が海外に派遣され, 合計 67 人の海外からの研究者を受け入れた。

(6) 職員の研修

①山口大学海外派遣 SD (スタッフ・ディベロップメント) 研修

山口大学教育研究後援財団の支援を受け, 毎年以下のとおり事務系職員を 1 週間程度海外に派遣し, 海外の大学における管理方法, 研究・教育支援体制を学ぶほか, 外国語能力の向上に努めている。

なお, 2012 年度に工学部が文部科学省グローバル人材育成推進事業に採択されたことに伴い, 事務系職員の国際マインドの養成を目的として, 派遣者枠を拡大した。

- ・ 2005 年度 : 2 名 (米国・ハワイ大学, 英国・シェフィールド大学)
- ・ 2006 年度 : 2 名 (カナダ・リジャイナ大学, ドイツ・エアランゲン大学)
- ・ 2007 年度 : 2 名 (米国・オクラホマ大学, 豪州・ニューカッスル大学)
- ・ 2008 年度 : 2 名 (中国・山東大学及び香港中文大学)
- ・ 2009 年度 : 2 名 (中国・山東大学)
- ・ 2010 年度 : 4 名 (中国・山東大学, 台湾・大葉大学外, インドネシア・ウダヤナ大学)
- ・ 2011 年度 : 3 名 (中国・山東大学, インドネシア・ガジャマダ大学)
- ・ 2012 年度 : 4 名 (中国・山東大学, 台湾・大葉大学, インドネシア・ガジャマダ大学)

- ・2013年度：13名（中国・山東大学，台湾・大葉大学，インドネシア・ウダヤナ大学，ベトナム・ハノイ農業大学，カントー大学，タイ・カセサート大学，ラジャマンガラ工科大学）
- ・2014年度：16名（中国・山東大学，台湾・大葉大学，インドネシア・ウダヤナ大学，ガジャマダ大学，オーストラリア・シドニー工科大学，ニューカッスル大学，カナダ・リジャイナ大学，タイ・チェンマイ大学，シーナカリンウィロート大学，マレーシア・マレーシア工科大学，マレーシア日本国際工科院）

②山口大学業務英語能力向上研修

外国人留学生及び研究者の生活，教育，研究の支援や、部局等の国際交流を担当できる事務職員の育成を目指し、2010年度から、外国対応の業務に必要なコミュニケーション及び英語能力向上研修として、ネイティブスピーカー講師による英会話訓練を行っている。2014年度からは、グローバル人材育成推進事業の一環で設置された工学部のグローバル技術者養成センターと共同で研修を実施し、同年度には25名が本研修に参加した。

(7) 学内の国際化推進体制の整備

国際化推進を目的として、外国人留学生・研究者の渡日後の生活支援のための「外国人留学生・外国人研究者サポートオフィス」を、2010年12月吉田地区にて試行実施で設置した。翌2011年6月には、アドバイザー2名（吉田地区1名，宇部地区1名）を配置し、サポートオフィスを本格稼働させ、外国人留学生・研究者の渡日、入学，入学後の各種支援体制を整えた。

また、2014年度、国際戦略室において「優秀な留学生確保に関するWG」「学生の海外派遣推進に関するWG」「外国人留学生同窓会に関するWG」の3つのWGを立ち上げ、提言を行った。

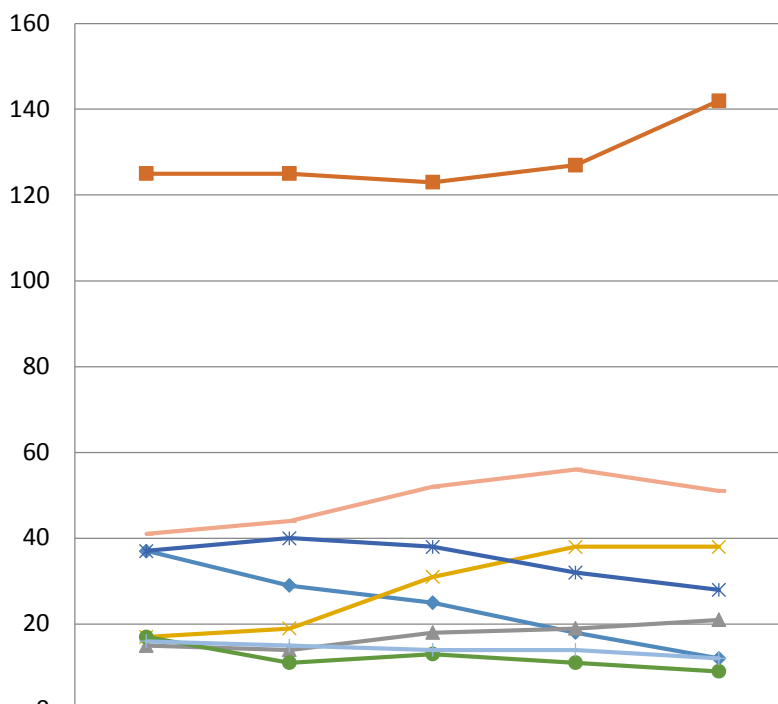
(8) 留学生の促進策

留学生への経済的支援を図るため、山口大学教育研究後援財団の支援を受けて外国人留学生奨学事業の創設を行った。

また、北京国際連携オフィスを活用しての渡日前入試（理工学研究科），山東大学，貴州大学における渡日前入試（経済学研究科）も実施した。

(参考) 出身国・地域別留学生数の推移

[国別]過去5年間留学生数推移



	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)
◆ 大韓民国	37	29	25	18	12
■ 中華人民共和国	125	125	123	127	142
▲ 台湾	15	14	18	19	21
✕ インドネシア	17	19	31	38	38
✧ マレーシア	37	40	38	32	28
● タイ	17	11	13	11	9
⊕ バングラデシュ	16	15	14	14	12
— その他	41	44	52	56	51

第2章 2014年度の留学生部門の活動

1. 留学生交流拠点整備事業を推進



山口大学は2012年度文部科学省「留学生交流拠点整備事業」に採択され、「ビジターからパートナーへ」のキャッチフレーズのもと活動しています。そのキャッチフレーズを実現するため、「留学生就職支援フェスタ・イン・山口」、「留学生のための日本企業文化理解講座」、「留学生と企業経営者との交流会」等の行事を開催しました。

また、留学生の地域交流では市民参加型シンポジウム「山口の食を世界へ！」を実施し約120名の参加者がありました。加えて地元放送局とタイアップし、ラジオ番組に留学生が出演するコーナーを継続しています。今後は、留学生が日本のパートナーとしてのグローバル人材に育ってくれるよう、支援を推進していく予定です。



2. 山口大学日本語・日本文化サマープログラム2014を開催



留学生センターでは毎年、海外の学生を対象に日本語能力の向上と日本文化の理解を深めることを目的として、短期集中プログラムを開催しています。今年度は5回目の開催となり、韓国、中国、台湾、マレーシア、オーストラリア、フランスから26名が参加しました。

7月10日から8月6日までの4週間のプログラム期間の中で、午前中に日本語学習の授業、午後からは会話を中心とした学習をベースに、地域の皆様にご協力いただき、日本の家庭に滞在するホームステイ（2泊3日）や書道、華道および茶道の日本文化も体験しました。このほか山口市、萩市を訪問し、山口県の歴史・文化に触れ、最終日には浴衣を着て山口七夕ちょうちんまつりにも参加しました。このプログラムには、本学学生が各行事の運営補助として参加し、歓迎会・送別会の司会進行を務めたほか、日本語会話の練習の相手となり、参加者との交流を深めました。

台風の影響があり、スケジュールの変更を余儀なくされましたが、参加者全員無事に修了証を手にし、帰国の際には本学学生との別れを惜しむ姿が見受けられました。過去の

参加者の中には、このプログラムへの参加をきっかけに、交換留学生や大学院生として本学に入学する者もあり、留学生センターでは、今後もこのプログラムを充実させ、本学の国際化を促進したいと考えています。



3. 山口地域留学生交流推進会議及び外国人留学生懇談会の開催



11月28日(金)14時30分から本学事務局において、山口県内の地方公共団体、経済団体、国際交流協力団体および高等教育機関の29機関が出席した山口地域留学生交流推進会議を開催しました。同会議では、文部科学省高等教育局学生・留学生課の木谷慎一係長より我が国の留学生政策について説明の後、各機関における留学生関係事業の取組について意見交換が行われました。今後も引き続き、各関係機関が情報交換をし、交流を促進することとしました。

引き続き、学長主催による外国人留学生懇談会が開催され、第1部は共通教育棟1番教室で「私の国のキャンパスライフ」をテーマに5カ国の留学生がプレゼンテーションを行いました。発表後の質疑応答では、国によって異なる生活について、学生の意見が交わされました。第2部では会場を第二学生食堂「きらら」に移し、岡学長による開会の挨拶の後、福屋留学生センター長から乾杯の発声があり、食事をしながらの交流を深めました。本学の留学生や関係教職員および地域の方々も含め約250人が出席し、大変にぎやかな会となりました。留学生による弓道の「巻藁謝礼」をはじめ太鼓やギターの演奏もあり、最後に瀨瀨副学長から、留学生との交流がますます深まるよう挨拶があり、閉会となりました。



4. 平成 26 年度外国人留学生見学旅行を実施



留学生センターでは、留学生が日本の自然・風土や歴史を体験から学ぶとともに、宿泊旅行を通して交流を深めることを目的として、毎年見学旅行を実施しています。

今年度は、12月13日、14日に、留学生86名及び教職員4名の計90名が参加して、宮島・厳島神社と道後温泉及び松山城を見学しました。

1日目は、厳島神社で舞楽を觀賞し、宮島を散策した後、しまなみ海道を通過して道後温泉に宿泊しました。旅館での食事は、全員が大広間で和食を味わい、食事の後は、誘い合って温泉地区を散策しました。2日目は、松山城で日本の歴史に触れるとともに、マスコットキャラクター達と記念撮影するなど交流の時間を楽しみました。

12月にしては、気温が低い日となりましたが、見学地で多くの日本文化に触れ、思い出に残る2日間を過ごすことができました。



第3章 2014年度の学術研究部門の国際交流活動

1. 独立行政法人日本学術振興会助成

(1) 二国間交流事業 「スロベニア MIZS との共同研究」

独立行政法人日本学術振興会が実施する、海外の学術振興機関（対応機関）と学術の国際協力に関する合意に基づき行う事業。個々の研究者交流を発展させた二国間の研究チームの持続的ネットワーク形成を目指し、日本の大学等の優れた研究者（若手研究者を含む）が相手国の研究者と協力して行う共同研究・セミナーの実施に要する経費の支援を行う。

【研究課題】 バイオナノ粒子の高性能分離を目指したモノリスクロマトグラフィープロセスの開発

【期間】 2014年4月1日～2016年3月31日

【山口大学実施部局】 大学院医学系研究科

【山口大学担当教員】 山本 修一（教授）

【相手方機関名（国・地域名）】 COBIK（スロベニア）

【相手方参加者】 Ales Podgornik（室長補佐）

【事業概要】

バイオナノ粒子の高効率分離を目指したモノリスクロマトグラフィープロセスについて

て、有用な知見を持つ Ales Podgornik 氏 との共同研究を進めることにより、新たなプロセスの開発が期待できる。

交流の詳細は以下のとおり。

氏名・所属	期 間 (現地到着日～現地出発日)	主たる訪問機関 (国名)
山本修一・山口大学	2014年5月29日～6月6日	COBIK(スロベニア)
山本修一・山口大学	2014年8月23日～8月28日	IDS2016 conference(フランス)
山本修一・山口大学	2014年9月07日～9月11日	ESBES conference (フランス)
Ales Podgornik・COBIK	2014年10月25日～11年4日	山口大学・奈良県新公会堂
山本修一・山口大学	2014年11月15日～11年19日	AICHe meeting(アメリカ)
山本修一・山口大学	2015年3月12日～3月19日	COBIK(スロベニア)
吉本則子・山口大学	2015年3月12日～3月16日	COBIK(スロベニア)

【得られた成果】

A.Podgornik 氏滞在中(10月25日～11月4日)に新たな実験条件を見出し、従来不可能であった生成物までを短時間に分離分析できることが可能となった。これにより PEG 化反応を精密かつ正確に解析できると期待される。この成果については論文投稿準備中である。また、重合体を容易に分離できるリガンドを解析した。この成果は A.Podgornik 氏との共著論文として ESBES conference(9月7日～9月11日)で発表した。PEG 化により拡散係数が低下することはよく知られているが、その値を溶液中の拡散係数のみならず細孔内拡散係数についても測定し、有用な相関式を作成した。この内容については AICHe meeting で共著論文として発表した(11月15日～11月19日)。

(2) 外国人特別研究員

独立行政法人日本学術振興会が実施する、諸外国の若手研究者に対し、日本の大学等において日本側受入研究者の指導のもとに共同して研究に従事する機会を提供する事業。個々の外国人特別研究員の研究の進展を援助するとともに日本及び諸外国における学術の進展に資することを目的とする。

【研究課題】 深海底におけるメタンハイドレート の長期生産可能な手法の開発

【期間】 2014 年度～2016 年度

【山口大学実施部局】 大学院理工学研究科

【山口大学担当教員】 兵動 正幸 (教授)

【相手方機関名 (国・地域名)】 大連理工大学 (中国)

【相手方参加者】 LI Yanghui (講師)

【事業概要】

深海底におけるメタンハイドレート生産を模擬した模型実験および解析を実施し、生

産障害要因を除去して高い生産性を確保するとともに、安全な生産手法を開発することを目的として、模型実験および解析を行う。

【得られた成果】

2014年度は、メタンハイドレート貯蔵層を模擬した模型実験装置を作製し、その装置を用いてメタンハイドレートを生成させ、分解実験を行うことを可能とした。また、水・ガス・土の連成系の有限要素解析により、メタンハイドレート分解のシミュレーションプログラムを作製した。

(3) 論文博士号取得希望者に対する支援事業

独立行政法人日本学術振興会が実施する、アジア・アフリカ諸国の優れた研究者が、日本の大学において大学院の課程によらず論文提出によって博士の学位を取得できるように支援する事業。

① **【研究課題】** ベトナム産トカゲ類の寄生虫分類学の基盤構築ならびに寄生虫相多様性の形成因子の解明

【期間】 2012年度～2014年度

【山口大学実施部局】 共同獣医学部

【山口大学担当教員】 佐藤宏（教授）

【相手方機関名（国・地域名）】 ベトナム科学技術アカデミー／生態学・生物資源研究所（ベトナム）

【相手方参加者】 TRAN, Binh Thi (研究員)

【事業概要】

TRAN氏はベトナム北部、中央部で、ヤモリ科、アガマ科、オオトカゲ科、トカゲ科など4科の9種を対象とし、積極的に寄生虫材料の収集を行ってきた。2014年度はTRAN氏を68日間（平成26年7月31日～9月15日、平成27年2月27日～3月20日）受入れ、研究指導を行う。

【得られた成果】

今年度は、ベトナム産トカゲ寄生の *Cosmocercoides tokinensis* として新種記載した論文を国際学術専門誌 *Acta Parasitologica* へ投稿し、2015年6月に発刊される60巻3号に掲載される。また、ベトナム産トカゲから得た *Strongyluris* 属2種について、1つを新種、他方をアジアに広く見られる *S. calotis* と考え、研究協力者から提供を受けた沖縄～台湾およびマレーシアのキノボリトカゲから収集された材料について、光学顕微鏡、走査電子顕微鏡観察、分子系統学的解析を行い、これまで混乱していたアジア産トカゲ寄生の *Strognyluris* 属についての分類学的整理が大きく進展した。この研究についても投稿論文を用意し、国際学術専門誌での発表を目指している。さらに、学位論文の構成について協議・決定し、執筆に着手し、2016年3月の学位取得を目指している。

②【研究課題】高速鉄道レールにおける突き合わせ溶接部位の強度信頼性評価

【期間】2014年度～2016年度

【山口大学実施部局】大学院理工学研究科

【山口大学担当教員】合田 公一（教授）

【相手方機関名（国・地域名）】トルコ国鉄（トルコ）

【相手方参加者】SARIKAVAK, Yasin（研究員）

【事業概要】

高速鉄道レールに用いられるアーク突き合わせ溶接部位の強度信頼性評価を目指し、2014年度は、SARIKAVAK氏を21日間（2014年12月6日～12月26日）受入れ、また、合田教授が9日間（2015年3月14日～3月22日）、SARIKAVAK氏がこの間出張滞在している英国ヨークを訪問し、研究指導を行った。

【得られた成果】

フィールドデータの信頼性解析に取り組み、結果の一部を日本材料学会信頼性工学部門委員会および中国・九州支部が主催する講演会にて発表した。

また、突き合わせ溶接レールに対する疲労試験方法について検討し、試験可能な試験片形状や切出し寸法を考案した。さらに、過去に公表されている突き合わせ溶接棒の疲労特性に関する文献調査も併せて行なった。

(4)研究拠点形成事業

独立行政法人日本学術振興会が実施する、日本において先端的かつ国際的に重要と認められる研究課題、または地域における諸課題解決に資する研究課題について、中核的な研究交流拠点の構築とともに、次世代の中核を担う若手研究者の育成を目的とする事業。

【研究課題】バイオ新領域を拓く熱帯性環境微生物の国際研究拠点形成

【研究期間】平成26年4月1日～平成31年3月31日

【山口大学中心実施部局】農学部

【山口大学担当教員】山田守（教授）

【相手方機関名（国・地域名）】カセサート大学 [(タイ側拠点機関)], ブラパ大学, チェンマイ大学, チュラロンコン大学, コンケン大学, キングモンクット技術大学ラドクラバング校, キングモンクット工科大学トンブリ校, マエファーラン大学, マハサラカン大学, メイジョ大学, マヒドン大学, ナレスアン大学, フラモンクットクラオ医科大学, ソンクラ王子大学, ラジャマンガラ工科大学タウンオク, ラジャマンガラ工科大学イサン, ランパイパニ教育大学, ラムカンヘン大学, シーナカリンウィロート大学, スラナリー工科大学, タマサート大学, タクシン大学, ウボンラチャタニ大学, パヤオ大学, ワライラク大学, 遺伝子工学・バイオテック国立研究所, タイ科学技術研究所, バイテックカルチャーコレクション, 生物多様性経済開発庁 (以上すべてタイ), ベルリンボイト工科大学 [(ドイツ側拠点機関)], カントー大学 [(ベトナム側拠点機関)], ハノイ国家大学, ホーチミン市技術大学, タイドー大学, タンタオ

大学，熱帯生物研究所，科学技術ベトナムアカデミー，経営や事業技術研究所（以上すべてベトナム），ブラビジャヤ大学（インドネシア側拠点機関），11月10日技術大学，マタラム大学，ハイルン大学，ベテランスラバヤ大学，ガジャマダ大学，技術の評価と応用庁（以上すべてインドネシア），ラオス国立大学〔（ラオス側拠点機関）〕，マンチェスター大学〔協力大学〕（イギリス）

【事業概要】

本事業には，日本，タイ，ドイツ，ベトナム，インドネシア，ラオスの大学等から約200名の研究者が参加し，5つの研究課題を約60-70件の国際共同研究によって実施する。なお，マンチェスター大学（イギリス）の研究者が，将来拠点大学となることを目指し，日本側の研究協力者として参加する。そのために，本事業メンバー全員が参加する「ジョイントセミナー」をタイと日本とで隔年開催し，成果報告や新技術紹介等を通じて積極的な情報交換を主眼として実施する。また，現地研究者との相互交流や事業の認知・拡大のために，「サテライトセミナー」をベトナム，ラオス，ドイツ，インドネシアで毎年輪番で開催する。さらに，学生を含む若手研究者育成の一環として「若手研究者セミナー」を日本あるいはタイで毎年開催する。加えて，「ワークショップ」や「国際会議等でのシンポジウム」等を開催する。

【得られた成果】

1. 研究協力体制の構築

コーディネーター会議を3回開催し，事業計画・方向性等のフレーム作成と意見交換を行った。8月7～8日，第1回サテライトセミナーをインドネシアで開催。現地の大学及び企業関係者約100名に，国際拠点事業の実績や本事業内容を紹介し，小課題研究の成果報告，共同研究者間交流，研究施設の視察等を行った。8月10～11日，第1回ジョイントセミナーをタイ研究博覧会（バンコク）の1つのセッションとして開催し，約200名が参加した。基調講演2題とともに，5つの研究課題からそれぞれ3～5件の研究成果を口頭発表した。加えて，約90名の研究者交流により，約70件の共同研究を開始した。

2. 学術面の成果

各研究課題について共同研究を進め，研究成果として，本事業参加研究者との共同論文7本を含む9本の論文を発表した。

3. 若手研究者育成

11月16～17日，第10回若手研究者セミナーを山口市で開催し，タイ，ベトナム，インドネシア等の本拠点事業参加研究者の指導する学生及び日本人学生を含む若手研究者100名以上が参加して，研究成果発表を行った。大学院生は，企画・運営にも携わり，学会開催のノウハウの取得や研究ネットワーク形成につながった。